



復活節第 5 主日 (ヨハネ 13:31-33a,34-35)

互いに愛し合う中にイエスがおられる

「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」
(13・34) イエスが示された「新しい掟」を、私たちは実践し、世に示さなければなりません。具体的に、その方法を探っていきましょう。

いよいよ、四連覇が近づいてきました。実際には実現しないかも知れませんが、私の中では四連覇間違いなしだと思っております。現時点では首位ではありませんが、首位の後ろで、あたかも「あおり運転」をしているかのように「オラオラ」と言いながらぴったり追いかけていくほうが面白いことに気づきました。

今日はそんな話題を延々話す予定ではありませんで、こういう声もありがたいなあという体験談を紹介します。教会をいくつか転勤している中で、新成人を迎える人をお祝いしてあげる機会を何度かいただきます。私のほうからは教会での祝福式と、何か思い出になる記念の品をと思ってプレゼントを用意します。これからの時間に少しでも役に立ってくれたらいいなあと思いながら記念品は選んでおります。

そういう中で、十年前に成人式を迎えた人から、いただいた品物を今でも持っていて、生きる力をいただいていますという便りが届きました。私はその人には、これからこういう時間を過ごせたらいいですねというカードと記念品を渡したような気がします。それが十年経っても力をもらっているということで、お役に立てたのかなあと思っております。

私も、人からいただいた声かけや品物を、大切にするタイプです。その時どんな気持ちでこの品物をくださったでしょうか。どんな思いであの言葉をかけてくださったでしょうか。年齢が 50 歳を過ぎて、少し考えが及ぶようになったのです。

私の場合は、成人式の折ではありませんが、助祭のときに頂いて 28 年経った今も大切に使っている祭服があります。結婚式を執り行うときに身にまとう祭服です。ほかにも、聖体の永久礼拝の時に着用しています。この祭服を着て結婚式を執り行うたびに、身の引き締まる思いです。今になって思うと、「取り扱う祭儀の尊さを、いつまでも忘れるな」そういう思いが込められていたのではないかと考えます。

私が新成人を迎えた人に贈ったものも、思いは込められていますが、それがどれくらい伝わるかは別問題です。その人は私の思いを十二分に汲んでくれて、カトリック信者としてより一層励んでくださっているわけです。本当にありがたいなあと思います。

誰かの思いが込められた言葉や贈り物が、受け取った人をより成長させる。受け取った人がキリスト者としてより高い生き方を目指すようになる。その様子がいつか送り主にも届いてその人の成長を喜ぶ。これは十分、今週の福音朗読でイエスが弟子たちに命じられた「新しい掟」

を生きる姿だと思うのです。

誰かが誰かのことを思う。そして小さな行動を起こす。その小さな行動が相手の心に届いて、相手はよりイエスの望みに答えようとする。受け取った相手がこんな日々を送って、キリスト者としてさらに成長を目指していることがこちらにも伝わってくる。ここにすでに、イエスが弟子たちに命じられた「互いに愛し合いなさい」という生き方が織り込まれているのではないのでしょうか。

ひょっとすると皆さんは、「互いに愛し合いなさい」と言われるが、平凡な私たちにはとてもそのようなことはできないと思っているかも知れません。けれども平凡な生き方の中にも、必ず誰かのために小さな行動を起こすことは可能だと思います。

その行動が届いた人の中で心に響き、よい実を結んでイエスの喜ぶ生き方を目指すようになる。これで十分なのです。私がイエスの示す新しい掟から考えたのは、「そこにイエスが生きておられるなら、互いに愛し合っている何よりの証である」そういうことです。

互いが互いのことを思い、小さな行動を起こす。その働きかけを受け取った人の中でイエスが生きておられるなら、イエスの命令にそって互いに愛し合っているのです。難しい生き方をイエスは命じたものではありません。互いに働きかける間柄の中に、イエスが生きておられるなら、新しい掟を実践しているのです。